

社会正義と人々のエンパワメントのための RESPECTFUL カウンセリング

ダニエルズ&ダンドレア

「社会問題に立ち向かうカウンセリング」講演報告

伊藤武彦 所員・人間関係学部教授

「社会問題に立ち向かうカウンセリング」Counseling for social justice と題して、ジュディ・ダニエルズ氏&マイケル・ダンドレア氏（アメリカ・ハワイ大学教授）による合同公開講演会が、伊藤武彦の企画により和光大学総合文化研究所の主催で2005年6月1日に開催された。演者のダニエルズ氏とダンドレア氏は『コミュニティカウンセリング』（2003年）の共著者である。ここでは1対1の個人を対象とした直接的なカウンセリングだけでなく、心理教育などの間接的サービスの必要性を強調している。また、社会に働きかける活動の重要性を指摘している。両氏は米国カウンセリング学会において「社会正義のためのカウンセラーの会」のリーダーとして活発な執筆活動をおこなっている。以下は両氏の講演の要点を伊藤がまとめたものである。

伝統的なカウンセリングの考え方への挑戦

伝統的なカウンセリングの考え方は、環境の変革よりもクライアント個人の変化促進を重視する。このカウンセリングパラダイムは数十年間専門家の間で支持されてきたが、アメリカの精神保健ニーズに 대응していくにはこの考えでは狭すぎる、と主張する研究者は多い。伝統的カウンセリングに対して出されたパラダイムの1つが、コミュニティカウンセリングの考え方である（Lewis 他 2003）。ここでは、直接的サービスと間接的サービス、また、個人へのアプローチとコミュニティ（集団・組織・社会）へのアプローチがある。コミュニティカウンセリングには、個人に対する直接的サービス、コミュニティに対する直接的サービス、個人に対する間接的サービス、コミュニティへの間接的サービスの4つがある。例えば学校カウンセリングの領域としては、
として、個人カウンセリングとグループ・カウンセリングやピアカウンセリング、ハイリスク状況にある子どもへのアウトリーチなどが

ある。 としては、キャリア発達、対人スキル、価値の明確化、問題解決、健康問題、家族問題などの教育的プログラムがある。 としては、学校教員とコミュニティの援助ネットワークの成員に対するコンサルテーションや、コミュニティの諸機関につなげること、さらには、子どものためのアドボカシー（代弁・権利擁護）の活動が例としてあげられる。 としては、青少年に影響を与える社会政策へのアクションや学校の学習環境を改善するための努力などを指摘することができよう。このように社会正義のためのカウンセリングでは、コミュニティカウンセリングの考え方の重要性が、第1に指摘される。

第2の問題は、欧米的な個人主義を前提とするのではなく文化の多様性をみとめた上でカウンセリングを進めるという多文化主義である。多くの多文化カウンセリング理論家は、実践の中で人種や民族や文化固有の問題などを取り上げてきた。こうして、多文化主義は、20世紀の大部分にわたりカウンセラーの考え方の主流であった伝統的な価値観と視点に挑む主要な勢力の1つとなっている。伝統的カウンセリングパラダイムに反映されるキリスト教的ヨーロッパ中心主義と個人主義のすべてを非難するのではない。しかし、伝統的な心理的援助の枠組は、グローバリゼーションの進む現況では強者の弱者に対する価値観の押しつけによって抑圧的に働き、真の人間発達を支え合うような、社会正義のためのカウンセリングにとっては、批判の対象となる。

予防的な介入の重要性

多様な文化のクライアントによるカウンセリングへのニーズの高まりに伴い、今やカウンセラーは、援助を求める人々が心理的負担によって衰弱する前に援助が届くような新しい方法を考えるべきである。予防カウンセリングは一定の人々の特定の問題による負担を軽減することに努める。精神保健の専門家は公衆衛生の分野から1次、2次、3次予防を区分する用語を取り入れてきた。1次予防は特に問題を持たない人々に関して情緒的な問題の発生を防ぎ、その精神的健康向上に焦点を当てる。早い段階で問題を見定めて、扱うのが2次予防、問題による長期的な影響の減少に努めるのが3次予防である。つまり1次予防は、環境のストレスを減少させ人々の能力と生活技術を養う活動である。そこでは心理教育的な介入が重要である。

予防カウンセリングは個人に能力向上経験の機会を与える直接サービスを含む。予防を目指すカウンセリングは間接サービスの提供にも特徴があり、人々の生活に影響を与える社会環境の変化に焦点を当てる。プログラムが特

別に問題を持たず機能不全でない人へのサービスを目指すなら、治療というより予防と呼ばれる。カウンセラーの活動状況とは関係なく、対象となる人々のニーズに沿って直接間接両方のサービスを兼ね備えることを重視しなければならない。

ハワイの小学校における平和教育の取り組み

両氏は、子どもたちは家庭と学校から大きな影響を受けるので、効果的な暴力予防介入が、家庭だけでなく、子どもたちと、学級/先生と学校とにおいて、行われなければならないことを主張する。

平和教育の目的は、精神的な発達の傾向を育成するものであるとし、文化的差異への気づき、人間の差異についての知識、人間の尊厳の尊重、非暴力的な対人的問題解決能力、心の平和を実現するスキルなどを促進しなければならない。それに加えて、彼らの実験的な介入では、ハワイの文化を取り入れている。ハワイ文化は集団的であり関係的である。ハワイ語とハワイ文化にある、「謙遜」、「家族の名誉」、「協力」、「一致団結」、「正直」、「調和」、「平和」、「環境の配慮」にあたるハワイ語とその価値観を平和教育のコアとしている。

ハワイ大学実験校の場合は、幼稚園クラスと小学校1年生の平和と社会的スキルの発達プロジェクトとして、教師へのコンサルテーション(毎週)、子どもたちへの30分の介入(毎週)、親とのミーティング(毎月)をとおして、心が平和で安らかになる呼吸法に重点を置いた読書療法をおこなった。読書療法では、親切にすること、お互いを大事にすることについてかかれた本の読書によって、親切な行為とは何か、お互いと環境を大事にするにはどうしたらよいか、生活の中で何に感謝するかを討論した。また、教室に「思いやりの木」malama treeを立てて、他の子がやってくれた親切行為が子どもたちに見えるようにした。親切な行為があると、名前と何をしたかを書いた新しい葉っぱを木につけた。遊び場の掃除をさせ、土地(aina)を大事にすることを教育した。これにより、自分たちが大家族(ohana)の一員であり、お互い協力すること(laulima)が大事であり、お互いと土地/環境(aina)を大事にすること(malama)を、子どもたちに実際にハワイ語を使って示した。

このように、ハワイ州における先住民族の言語と文化を平和教育に取り入れているのである。

エンパワーメントのためのカウンセリング

エンパワーメントは1990年代から21世紀初頭にかけて多くの精神保健や心理的援助の専門家の間での合言葉になってきている。広く知られたわりには、あいまいさも伴っている言葉であるが、社会正義のためのカウンセリングの目標を説明するのにこの言葉を使うと大変有用である。McWhirter (1994) は、「エンパワーメントとは、力を持たず、社会的に無視された人々、組織、集団が、(a) 生活の中で働く力のダイナミズムを知り、(b) 自分の生活を程よくコントロールできる技術と能力を発達させ、(c) 練習し、(d) 他者の権利を侵害せずに、(e) コミュニティ内の他者の力をも積極的に支援するプロセスである」(p.12)と述べている。この定義によれば、カウンセリングが個人とシステムの変化、つまり、クライアントの生活に影響を持つ集団、組織、システムの変化を促進するとき、そのカウンセリングはエンパワーメント(力づけ)を行っているのである。McWhirter (1994) は、実践者がカウンセリングで個人的社会的責任の感覚育成を支援できる様々な方法について述べている。彼女の「エンパワメント・カウンセリング」のモデルは、この社会で迫害され差別されているクライアントに個人的と社会的責任を育てるために、カウンセラーが用いることのできるたくさんの実践的な介入法を説明している。エンパワーメントの対象者として、性同一性、年齢、身体障害などのために差別される人、物理的な暴力、人種的偏見の犠牲者などが含まれる。これらの人間の属性に考慮してカウンセリングを進めるべきだというのが、D'Andrea & Daniels (2001) のRESPECTFUL カウンセリングという考え方である。

RESPECTFUL カウンセリングという考え方

D'Andrea & Daniels (2001) では、以下の10項目の社会的な側面がカウンセラーとクライアントの両方において考慮されねばならないとしている。

- R (religious spiritual identity) 宗教的・霊的同一性
- E (economic class background) 経済的階級の背景
- S (sexual identity) 性同一性
- P (psychological maturity) 心理的成熟
- E (ethnic/racial identity) 民族的・人種的同一性
- C (chronological/developmental challenges) 年齢発達課題
- T (trauma and other threats to one's well-being) 心身の健康を阻害する

トラウマや恐怖

F (family background and history) 家族的背景と家族歴

U (unique physical characteristic) 独特の身体的特徴

L (location of residence and language differences) 居住地と言語の違い

R 宗教的・靈的同一性

宗教と靈性は、日常的現実の境界を超えて広がる宗教的構図に代表される、超自然的経験の肯定に基づいている、と指摘する。RESPECTFUL カウンセリングの枠組で用いる場合、宗教と靈性とは、物理的世界を超えて、個人に「超現実的な」人生の意味と経験をもたらす、本質的な信念を指す。

E 経済的階級の背景

多くの研究者が、個人の経済的な階層と背景によって態度、価値観、世界観、行動が影響されることを実証している。クライアントの多面性の1つであるこの経済的背景が、発達に影響することを理解して、カウンセラーはカウンセリングと心理治療の中で表れるクライアントの問題に、この要因がどのようにかわるかに注意する必要がある。

S 性同一性

RESPECTFUL カウンセリングモデルで用いられる性アイデンティティという用語は、ジェンダー同一性と役割、性指向などと関係している。ジェンダー同一性とは個人がどのようなことを男らしい、女らしいと主観的に考えるかを指す。ジェンダー同一性は明らかに、その文化と人種の慣習の中で社会化された男女の役割に影響されている。

P 心理的成熟

個々のクライアントの心理的成熟の度合いを認定することによってカウンセラーは、一人ひとりに特有な心理的強度とニーズに合い、尊重し得るような介入方法を設計することができるようになる。また、カウンセラー自身が自分の発達段階を、時間をかけて内省することが大事である。

E 民族的・人種の同一性

同じ民族・人種的集団内ではっきりした差異があることにカウンセラーは留意して、正確に認知し有効に対応できる知識と能力を身につけることが必要である。カウンセラー自身の文化的バイアスに気づくことも重要である。

C 年齢発達課題

人間発達の研究者は、カウンセラーが個人の生涯にわたる諸課題に理解を深めるのを助けてきた。そうした知識があれば実践者は、年齢的な困難にぶ

つかっているクライアントに対し、年齢に応じた適切な介入によって効果的な援助をすることができる。この配慮は、カウンセラーとクライアントの年齢がかなり離れている場合にいっそう役立つ。

T 心身の健康を阻害するトラウマや恐怖

ストレス状況にある人々が心理的に危険な状態に追いやられていく複雑なトラウマ化の過程がある。この危険状態は、ストレスの度合が人々の建設的な対処能力を超えた場合に生ずる。個人の持つ資源（対処能力、自信、社会的援助、属する文化集団から得られる支援）は、その人が環境によるストレスに支配されると抹消されてしまう。個人が長期にわたってストレスにさらされると、「傷つきやすく」、「危険な」状態になる。

F 家族的背景と家族歴

これまで基準としてきた伝統的な「家族」と大きく異なる家族が増えている。様々な形の家族（例えばシングル親、再婚同士の家族、拡大家族、ゲイ・レズビアンを親を持つ家族など）とカウンセラーが出会うことが増えており、これまで家族の諸タイプと比較して核家族を標準としてきた伝統的な考え方は見直しを迫られている。

U 独特の身体的特徴

現代の社会における身体的な美の理想化がこの文化的主流による狭い美の定義に当てはまらないた多くの人々の心理的発達に悪い影響を与えていることに敏感でなければならない。身体的特徴がストレスと不幸の源になっているらしいクライアントと接するとき、理想化された身体的美の神話が、どれほど彼らに否定的な見方と偏見を内面化させているか、カウンセラーは十分に認識する必要がある。またこの神話が、クライアントの持つ人間的な強さへの正確な判断を妨げ、誤った解釈を導く可能性があることも、憶えておいていい。

L 居住地と言語の違い

カウンセラーが自分の出身地と違う地域に生まれ育ったクライアントと接する時、その人と地域に抱きやすい偏見と先入観を心に留めておくことが重要である。このことは、対人関係の中で方言や違う言葉使いの人と共に問題に向き合う時に、とりわけ重要になってくる。カウンセリング中、偏見におちいつてはならない。

アドボカシーの重要性

McWhirter (1994) は、時に意図せずに、クライアントの力の感覚を失わ

せる（たとえ一時的であっても）ような伝統的カウンセリングのやり方は深刻な倫理問題であり、実践者は油断なく避けるように努力しなければならない、と鋭く論じている。

ステレオタイプとレッテルによる迫害を減らすために、スティグマ化（レッテル貼り）の問題に対処するために、カウンセラーは、レッテル貼りから起こる犠牲を減らすよう、スティグマ化された人々とグループの価値を高めるよう努めなければならない。こうして、社会的におとしめられた人々にコミュニティカウンセリングの枠組を適用するにあたって、次のことが可能である。長期的には、社会自体がすべての人を包み込む新しいやり方を認め努力するのがスティグマ化とレッテル貼りの克服を支援する唯一の道である。短期的には、カウンセラーが力づけ方略を用いてレッテルで傷ついた人々の心理的健康と幸福増進を目指すことができる。

個人と小グループのカウンセリングだけでは、こうした目標を達成できない。したがってカウンセラーは他者を受け入れ、クライアントを自助グループと接触させ、援助ネットワークの開発を促し、相談・助言技術を用いて社会環境に前向きの変化を作り出すなどの間接的な援助をしなければならない。

このように、社会問題に立ち向かい、社会正義を貫くためのカウンセリングは、日本においてどのように展開されていくのが、今後注目される。

参考文献

- D'Andrea, M., & Daniels, J. (2001), "RESPECTFUL counseling : An integrative multidimensional model for counselor". in D.B. Pope-Davis & H. L. K. Coleman (Eds.), *The Intersection of Race, Class, and Gender in Multicultural Counseling*. Thousand Oaks, CA : Sage. (pp.417-466).
- Lewis, J. A. Lewis, M. D., Daniels, J. A., & D'Andrea, M. J. (2003), *Community Counseling: Empowerment Strategies for a Diverse Society* (3rd ed.), Pacific Grove, CA: Brooks/Cole.
- McWhirter, E. H. (1994), *Counseling for Empowerment*. Alexandria, VA: American Counseling Association.

（いとう たけひこ）